

地御前地区コミュニティ推進協議会 35年の歩み (年表)

S 52	1977	5月広島県が「福祉の地域づくり実践地区」第1に指定、6月地御前地区コミュニティ推進協議会結成第1回総会開催、初代会長中川辰美就任、8月「じごぜんひろば」創刊号発行、9月地御前青年会結成総会、宮沢弘県知事出席、11月地御前漁協青年部が水産部門（カキ養殖）で天皇杯授賞
S 53	1978	9月地コ推協主催第1回地区運動会開催、10月青年会館落成
S 54	1979	4月会長小方一郎就任、扇園町内会、堀新町町内会発足、6月地御前小学校体育館落成
S 55	1980	8月白ポストを農協前に設置、11月地区内7ヵ所に掲示板を設置
S 56	1981	2月新住居表示、地御前・阿品分離、11月地御前地区コミュニティから阿品地区コミュニティを分離、12月「じごぜんひろば」10号で同地区配布を終了
S 57	1982	4月扇園集会所設置、6月地御前神社流鏑馬神事15年振り復活
S 58	1983	3月地コ推協シンボルマーク及びバッチ作成、「じごぜんひろばNo17」から使用
S 59	1984	5月地御前電停前ラック式駐輪場完成、7月地御前村民のハワイ移民100周年記念追悼親善訪問（小方一郎団長）
S 60	1985	2月地御前地区青少年問題研究会を開催、地御前電停プラットホームの改善運動
S 61	1986	11月小方一郎会長死去、副会長 松本 武 会長代行
S 62	1987	2月山陽自動車道（五日市～廿日市）開通、4月地御前電停プラットホーム移設完了 5月地コ推協結成10周年記念行事（式典、地区運動会）、会長に伏本節夫就任 5月「地御前郷土歴史の散歩道」コース案内図作成（文化部）9月県営住宅町内会発足
S 63	1988	4月廿日市市制施行、JR宮内串戸駅開設、5月市制施行祝賀運動会・演芸会開催
H 1	1989	6月地御前人口：6,684人(31年9月：4,420人) 2市2町連絡協議会「地域のまちづくり」参加、7月「郷土文化踊り」が「海と島の博覧会」に出場 8月J R阿品駅開設
H 2	1990	4月野坂中学校開校 地コ推会則一部改正（会費100円→150円/戸とする）
H 3	1991	2月丸子町町内会発足 4月地御前婦人会は女性会に変更
H 4	1992	1月地コ推協が広島県知事表彰（発足15年目）3月堀集会所設置 4月エスティーム地御前町内会発足 町内会数27
H 5	1993	4月地御前公民館落成（祝賀式・懇親会）会長 吉本 武就任
H 6	1994	4月地御前地区市民ふれあい祭り演芸会開催（第1回文化部）
H 7	1995	4月桃山団地住宅建設、6月廿日市スポーツセンター（サンチェリー）開館
H 8	1996	1月廿日市市教育委員会による地御前小学校移転整備事業説明会、天皇杯第1回全国都道府県対抗男子駅伝（地御前電停前中継点）、10月ひろしま国体ふるさと応援団（柔道）に参加、12月「厳島神社」世界文化遺産登録
H 9	1997	4月市制施行10周年 新庁舎・文化センター落成、 6月地コ推協発足20周年記念事業開催、地御前地区世帯数人口2,691戸 7,241人
H 10	1998	9月広電電停「JA広島病院前」開設、 町内会長対象「町内会運営に関するアンケート」実施

地コ推協創立 35周年に寄せて

この度は、図らずも創立35周年（通称P35）記念行事の実行委員長を拝命し、不慣れな私が戸惑いの中、各代会代表の皆様のご協力と無事記念式典を終えました。

皆様方のご協力に深く感謝致します。「みんなであつこう地御前のわ」のもと、記念講演会では、松本直子先生健康運動指導士に、健康と地域の関わりを、楽しく分かり易く講演頂きました。また、P35記念ブースでは、各部の特徴を生かした催しで、ご来場の方々を楽しませて頂いたことに感謝いたします。

P35行事のフィナーレは、今春の第35回地区運動会になります。地域の皆様方もご参加下さり、久しぶりの一日開催が盛り上がることを期待しています。「みんなであつこう地御前のわ」を合言葉にP35実行委員会は、フィナーレに向けて、これからも活動致します。今後とも、地御前コ推協の活動にご協力よろしく願ひ致します。

地コ推協創立35周年 おめでとつございます。

町内会もコミュニティ活動の母体となつて共に活動をしてきているところです。各町内会長はコミュニティ部の部員として活動が求められ参加しております。町内会長を退任後も継続して地区の皆さんと活動をされている方も多くおられます。

2011年3月11日の東日本大震災をきっかけに、地域、地区、近所の絆が改めて問い直されました。

私は次のように思います。その地区に生きるといふこと、地御前について日頃の学びや活動を通じて「地御前に生きることの肯定感と愛着を持つ」、人生をもっと豊かに「地御前に暮らし、生きている自分を見つめよう」「この地御前で生きていく意味」「自分が地御前で生きる意味を問い直し、地御前を変えていく主体になろう」。また、住民同士の信頼、相互支援体制、地御前が誇りとする物語、地御前のにぎわいを多くの方々のご参加をいただき創出していきたいと考えております。

講演 「健康づくりは 人街づくり」

健康運動指導士 松本 直子先生
【講演要旨】
廿日市市では廿日市市健康増進計画「健康はつがいち21」など市民の健康づくりにいち早く積極的に取り組んでおられる。廿日市市の健康診断受診率は最近かなり上がってきている。そこで、社会を健康で活力あるものにするために、従

近年廿日市地域において、新たな発想が生じています。町内会とコミュニティを統合して、地区の活動をより活性化を取り組みがなされてきており、地御前もその検討に入っております。

今後とも町内会は、コミュニティ活動の母体として活動を続けます。地区の皆様には積極的ご協力ご支援を賜りますようよろしくお願い致します。

来にも増して健康を増進し、病気の発症を予防する二次予防に重点をおく対策を推進し、早世（早死）や要介護を減少させ、健康寿命（寝たきりや認知症にならない状態で生活できる期間）の延伸を図っていくことが重要になっている。

老化を遅らせるにはウォーキングやスクワットなど適度な運動が一番。最近の研究ではメタボリックシンドローム内臓脂肪症候群）が原因で脂質異常、高血圧、高血糖を誘発することが明らかになっている。メタボリック・シンドロームが進むと、ロコモティブ・シンドローム（骨・関節・筋肉など体を支えたり動かしたりする運動器の機能が低下し、要介護や寝たきりになる危険が高い状態）にもつながり寝たきり状態となる。

要は筋肉をつけること、両足の大腿部が二升瓶程度、両腕のこぶしがカンピールほどの太さがあれば良い。食事の食べ順は①葉物野菜（サラダなど）、わかめ、きのこ、②肉、魚など、③煮物根野菜、④ご飯。運動は一週間に5600歩、歩く。食事に気を付けることで内臓脂肪の改善が図られ健康寿命を延ばすことが期待できる。

地コ推協創立三十五周年記念特集

地コ推協は1977年発足し今年6月で35周年を迎え記念式典が、11月11日眞野勝弘市長を迎え市民センター講堂で行われました。式典に先立ち永年、地域づくりに貢献された相良宏三氏、宮本育生氏に感謝状が贈られました。式典後、山本直子先生（健康運動指導士）の「健康づくりは人・街づくり」と題する講演を頂きました。

式辞

地御前地区コミュニティ推進協議会 会長 西田 弘展
35周年を迎えることができました。みなさん、本当にありがとうございます。先ず、35年を繋いでいただいたこれまでの役員の方、地域の方にお礼を申し上げます。そして、本日ご出席いただいた皆さまありがとうございます。来賓の方々ありがとうございます。



「集う」集まるために集まるのではなく。何かをするため、学ぶために集う。そこには人間性のふれあい人間本来備えなくてはならないものを得ることができます。目的を持った集いは人間力の学びとなるでしょう。

「学ぶ」ふれあいはお互いの人権を尊重したものであり、その相互作用によりお互いを認めたりし自分の存在価値を知ったり、人間性の充実を図ることになります。

「結ぶ」そして、結ぶ。そのような集いにおいて、真の絆が地域に生まれます。

肝心なのは、隣の人、隣の国、隣の地域が平和でなければ自分も平和でないことを忘れてはならないということです。

みんなであつこう地御前のわ（和・話・環・輪）これからもよろしく願ひします。

※因みに式典後 当時の役員井上喜良氏（元町会議員）から当時の会員バッジが届けました。

祝辞

地御前コミュニティ推進協議会35周年に寄せて

本日は、御前地区コミュニティ推進協議会35周年にお招きいただき、ありがとうございます。

皆様方には平素から市政の推進にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げますとともに、創立35周年記念をむかえられたことを、心からお祝

い申し上げます。



ご承知のとおり、昭和52年に、地御前地区が広島県の「地域づくり実践地区」に指定され、本市初のコミュニティ推進協議会を設立されました。以来、住民相互の連帯と地域の各種団体との連携を図りながら、心の通う温かい地域づくり活動が35年の長きに亘り実践され、本市のコミュニティ活動を牽引してこれ来ました。近年では、「野坂ふれあいフェスティバル」への参加など子ども達を対象とした新事業の発展や、地御前地区自主防災会の設立による安全安心な町づくりの推進など、幅広い地域活動を展開されておられます。地御前地区を住みやすい、魅力あふれるまちにしていくための皆様方のご尽力に対して、敬意を表する次第でございます。

会場外には35周年記念イベントブースも設けられ賑わいました。



第35回地御前地区運動会
平成25年5月19日（日）8:30
地御前小学校グラウンド
35周年記念行事、
締めくくります
今年度は日大会を
予定しています
「みんなであつこう地御前のわ」
地域の皆さまが多数参加し
楽しんで頂ける大会にしましょう。

発行 地御前市民センター内
地御前地区コミュニティ推進協議会 広報部

じごぜんひろばNo76 2013年（平成25）1月1日 地御前地区コミュニティ推進協議会			別刷2
H11	1999	5月会則一部改正（事務局を会長宅に置く、女性の会削除等） 8月運動会町内会別区割り改正（翌年度から実施）	
H12	2000	4月日本赤十字広島看護大学開校、桃山・自由が丘、町内会発足 町内会数29 7月地コ推協を窓口として「地御前地域づくり支援事業特別委員会」を設置。 9月「地御前地域づくり委員会」に改称	
H13	2001	3月24日（15：23）芸予地震発生、震度5強、甚大な被害発生、 5月市内循環さくらバス運行開始、6月会長 相良宏三就任	
H14	2002	5月「地御前地域づくり実行委員会」を「地御前まちづくり委員会」に改称6月地コ推協発足25周年記念式典・祝賀会、地御前の世帯数人口2,896戸 7,312人	
H15	2003	3月旧廿日市市・佐伯町・吉和村合併 6月：「地御前敬老事業委員会」設置。 「地御前潮廻し景観協議会」発足	
H16	2004	6月流鏑馬騎乗者装束新調（まちづくり）7月：地御前小学校移転中止、現在地で整備	
H17	2005	1月地コ推協倉庫設置（体育部管理）、3月「地御前史跡マップ」作成、 11月旧廿日市市・大野町・宮島市合併	
H18	2006	3月地御前小学校改築工事開始（4年計画）4月廿日市市民活動センター開設	
H19	2007	4月ルミナス地御前町内会発足30町内会6月地コ推協発足30周年記念事業（式典・講演会） 7月グリーンフィールドサッカー場完成、10月町内会対抗グランドゴルフ第1回大会開催	
H20	2008	5月地コ推協・まちづくり委員会との統合。環境部（井上良宅部長）を新設	
H21	2009	3月自治宝くじ助成事業で防犯灯2基・掲示板5基設置完了、地御前小学校改装工事完了、 10月野坂中学「のさかふれあいフェスティバル」初参加、7月新公園づくりプロジェクト発足	
H22	2010	2月史跡案内板除幕式（鹿の子地藏・小林千古記念碑）、3月地コ推協・町内会連絡協議会が協力して自主防災会（千原保仁会長）を設立、7月地コ推協・民生委員・児童委員協主催市民センター共催事業「通学合宿」開催、12月地御前電停前歩道拡幅	
H23	2011	1月じごぜんひろば第72号に湯崎知事の寄稿頂く、3月地御前キラキラ公園開園、備蓄資材倉庫を設置、4月相良会長退任、新会長西田弘展就任。サーパスシティー地御前町内会発足31町内会 5月自主防災会総合防災訓練実施、災害時備蓄倉庫の設置、6月地御前小学校新プール完成、7月第1回災害時要支援者制度の検討会、第1回地御前地区団体代表者会議発足、11月史跡案内板除幕式（八つ面神社記念碑）	
H24	2012	3月西広島バイパス高架橋開通、4月地御前キラキラ公園維持管理倉庫設置、6月地御前1号幹線築造工事施行（污水管路施設工事）6月地御前漁港海岸堤防等老朽化対策護岸工事施行（3ヵ年計画）11月地コ推協発足35周年記念式典・講演会・パネル展示 12月地区内28ヵ所に「海拔高表示板」を設置（自主防災会）	

出典：“じごぜんひろば”地コ推協総会資料、公民館だより、市統計資料

地御前の世帯数、人口

	世帯数	総 数	男	女		世帯数	総 数	男	女
地御前一丁目	583	1,359	631	728	地御前北一丁目	90	219	108	111
地御前二丁目	426	950	456	494	地御前北二丁目	405	932	434	498
地御前三丁目	512	1,169	537	632	地御前北三丁目	344	911	442	469
地御前四丁目	388	957	465	492	地御前北小計	839	2,062	984	1,078
地御前五丁目	318	742	348	394	合 計	3,066	7,239	3,421	3,818
地御前 小計	2,227	5,177	2,437	2,740					

（24年10月現在）

謝を申し上げます。
　　今後は、先輩諸氏の軌跡を踏まえながら若い力を結集し、次の40・50周年へと、更なるご活躍を祈念致しまして、祝辞とさせていただきます。

地御前の想い出

廿日市市議会議員 林 忠正

私が地御前に転居して来たのは昭和62年3月で25年余りになります。それまでは熊野におりましたので、当時小学3年生の長男にとつて海がめずらしく、毎日のように魚釣りに夢中になっており、私も時々はついで海に行っていました。更に、地御前史跡めぐりに参加し、史跡の多いところで、管弦祭が地元で観覧でき、得した気分でありました。

サラリーマンの私は地域での活動は一斉清掃などに参加するぐらいでありましたが、町内会の持ち回りの役員を務める頃から町内会、コミュニティに関わるようになりました。会社を定年と同時に地域の支援で廿日市市の市議会議員となり3年9ヶ月となりました。私なりに努力しておりますが、今後とも廿日市市及びこの地域の活性化のために尽力したいと思います。

　　創立23年目を迎えたばかりの野坂中学校ですが、この間、地御前地域の皆様に支えられ、法面の草刈り作業や野坂ふれあいフェスティバルでは共に活動しお手伝いいただき、行事があるといえは駆けつけ応援して頂いています。2年生の夏休みに実施している5日間の職場体験学習では、地元の多くの事業所の方々に生徒の受け入れと体験や指導に協力していただいています。子どもは地域の宝とはいえず、いつもお世話になるばかりで、郷土のために何かお返しできることはないものかと思案しています。

　　未だに何一つ実行に移せていないのが現状ですが、今後ともご指導ご鞭撻、よろしくお願いいたします。

地御前コミュニティ推進協議会35周年 おめでどうございます。

廿日市市立地御前小学校 校長 日野 恵子

地御前小学校に着任した2年前、地御前地区運動会の迫力には、圧倒されました。それは、代々受け継がれてきた**「地御前のわ」**の成果だと確信しています。秋の敬老会でも同じことを感じました。内容が充実している上に、皆さんが協力し合って運営される姿が、とても感動的でした。

昨年度、小学校では、津波を想定し「地御前キラキラ公園」まで逃げる避難訓練を実施しました。校外への避難ということもあり、自主防災会にも協力を依頼したところ、大勢の方が、一緒に活動してくださいました。地御前小学校の子ども達は、このような地御前コミュニティの活動をたくさん見て成長しています。きっと将来**「地御前のわ」**をより一層大事にする大人になってくれることでしょう。

　　地御前保育園 園 長 沖 美貴子

「おはようございます。」という声が、その日の集合場所である地御前小学校正門前に響き、子どもたちの挨拶の声と待っている間の足音が交差していました。

その日は、どの子も地御前コミュニティ推進協議会創立35周年記念式典に出席するために集合しており、足音同様、子どもたちの心は、嬉しさと不安でいっぱいでした。でも、友だちの人数が増してくると、不安感はなくなり嬉しさが広がってきたようで、ステージに立つ頃には「頑張ろう。」という気もちになっていたようです。

大きな声で歌ったり、楽しんで体を動かして踊って、皆さまに披露ができた後、地区の方々から温かい拍手を頂きました。その心のこもった拍手に、子どもたちの心の中に、ちよつとした達成感が生まれたようでした。

その姿に、保育園の子どもたちも、地域の皆さまに育ててもらっているのだなあと改めて感じた日となり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

　　地御前地区コミュニティ推進協議会におかれましては、昭和52年に当時の宮沢 弘広鳥県知事が地域コミュニティ事業として発信したのを受けて、旧廿日市市地御前地区がいち早く立ち上げて、翌年の昭和53年には地御前地区コミュニティ推進協議会主催による第1回目の地御前地区運動会を開催しておりコミュニティ活動の歴史も古い地域であります。また、地御前地区は史跡・旧跡が数多くある歴史の古い地域でもあり、地御前北地域は新興住宅地域として近年発展した地域であり、新旧が一体となってコミュニティの場としての活動が活発にされております。

最後に、地御前地区コミュニティ推進協議会の更なる発展と、西田会長はじめ会員各位のますますの御健勝と御活躍をこころからお祈り申し上げます。

　　さて、創立35周年のスローガンは、「みんなでつくりよう地御前のわ」であると同つております。本市では、昨年4月1日に「廿日市市協働によるまちづくり基本条例」を施行いたしました。

　　少子高齢化や人口減少、地域課題の多様化など、社会の変化に対応し、暮らしやすい地域社会を次の時代につなげていくためには、多くの人がまちづくりに関わり、互いにつながりながら力を発揮していくことが大切であると考えております。

　　東日本大震災を機に、地域の絆の重要性が見直されていますが、人と人のつながりをより一層深めていくことで、地御前地区のまちづくりの輪が、より大きな輪となることを願っております。

　　本日は、式典後、健康運動指導士の松本直子先生による記念講演会が開催されると伺っております。本市におきましても、全ての市民が健やかで心豊かに生活することができるよう、市民の健康づくりに、より一層取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

　　最後にになりましたが、地御前地区コミュニティ推進協議会のますますの発展とご出席の皆様方のご健勝、ご多幸をお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

「地御前コ推協との35年間」

地コ推協 前会長 相良 宏三

　　昨年11月のコ推協創立35周年記念式典において、永年地域活動に貢献したとしてコ推協会長さんから感謝状をちょうだいしました。

私は今から36年前の1977年（昭和52年）のコ推設立当初から、主に青少年部・体育部に所属して一昨年5月まで関わって来ました。最後の10年間は会長として（歴代の会長で最長期間）みなさまの



　　ご協力を得て、何とか責任を果たしたつもりです。

　　設立当時の地御前は野坂団地・ふじタウン・鼓ヶ浜団地の造成や、扇園・海晴丘、阿品地区のニュータウン建設の構想などもあり、広島市のベッドタウンとしての性格を色濃くして来ていた時期でした。現在の阿品地区・阿品台地区を含む当地区の先輩方がコミュニティ活動のモデル地区にならんとして当協議会を設立した訳です。コミュニティという言葉の意味から勉強する時代でしたが、新旧住民の融和を図る必要性が高まっていた時期とも言えます。36年経った現在は当時と環境も違つて来ていますが、“みんなが安心して住めるまち”を目指すというコ推協の目標には変わりはありません。

　　一人の住民としてコ推協活動に今後も関わって行きたいと思い、御礼の気持ちをお伝え致します。

　　ありがとうございました。

私の場合、コ推と言うより町連としての表彰とお聞きし関係者各位の心の大きさに敬意を表します。

　　ある夕方のキラキラ公園のあずま屋で小学校5・6年生の女の子が笑顔で話し合っている。遊具で幼子が母親と楽しそうに遊び、グランドでは男の子が仲良く野球をしている。遊歩道では老夫婦が会話をしながら歩いている。一生懸命、手を振つてあるいても私と同様なかなか前に進まない壮年の男性。早い早い背筋をピンと伸ばしスマートに歩かれる女性の方（年齢？）。そこにはこの地域に住みたい、住み続けたい姿があり、コ推の原点、集う場があった。夕日で西の空が赤く染まり心なむひととき。



祝 辞

廿日市市議会 議長 角田 俊司

　　新年明けまして おめでとうございます。

　　地御前地区コミュニティ推進協議会におかれましては、昨年6月に35周年を迎えられ、重ねてお祝い申し上げますと思います。

　　昭和52年に、廿日市で初めてのコ推協として発足された当初から、地域のミニコミ誌「じごぜんひろば」を発行。今回で76号目となる等、歴史的な重みもさる事ながら、常に市全体の目標となる数々の活動に対し、心より敬意と感謝を申し上げます。



ご来賓、前列左から眞野、山下、角田、後列左から林、河崎の各氏